

中学校社会科における政策評価による授業の構想と展開

— 中学校第3学年「徳島市の将来から市の事業を見つめ直してみよう！」の場合 —

山根 拓*，門出有芳葉*，陶久 円花*，
井上 奈穂**，麻生 多聞**，青葉 暢子**

(キーワード：社会科，政策評価，主権者，財政)

I. はじめに

主権者教育の推進に関する検討チームによる「最終まとめ」(中央教育審議会，2016)では、主権者教育の目的を「単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるにとどまらず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせること」としている。また、主権者教育の推進方策として「子供たちの発達段階に応じた社会の範囲(家族、家の近所、小中学校の校区など)の構成員の一人として、現実にある課題や争点について自らの問題として主体的に考え、判断するといった学習活動を学校、家庭、地域など社会全体で主権者教育を推進する取組」が示されている。

筆者らは、社会科における概念の習得・活用を行う授業を小学校(井上ほか2012, 2013, 2014, 2015, 益井ほか2016, 小川ほか2017)及び中学校(長尾ほか, 2019)において開発・実践し、習得・活用すべき概念の具体を提案してきた¹⁾。本研究では、先行実践の成果を踏まえつつ、子ども自身の生活と財政との関わりについての理解を助ける授業開発を目指した。

平成30年度の「教育実践フィールド研究」では、以上の課題を踏まえ、鳴門教育大学附属中学校にご協力頂き、「徳島市の将来から市の事業を見つめ直してみよう！」をテーマとした授業開発・実践を、同校の第3学年で行った。(門出 有芳葉)

II. 本単元で扱う教材

(1) 学習指導要領上の位置づけ

本単元では「中学校学習指導要領(平成20年告示)」社会科の内容「(2)私たちと経済」「イ国民の生活と政府の役割」における「財源の確保と配分という観点から財政

の役割について考えさせる」に基づく単元を開発・実践した。

(2) 教材研究

本授業では、事業仕分けを通して財政の仕組みや事業が果たす役割を理解させることをねらいとしている。事業仕分けで取り扱う対象地域については、鳴門教育大学附属中学校がある徳島市とした。これにより、生徒が興味を持ちながら積極的に取り組み、理解できると考えた。

徳島市は、「つなぐ」まち・とくしま、「まもる」まち・とくしま、「おどる」まち・とくしまを基本目標として掲げている。本授業では、その中から「おどる」まち・とくしまを基本目標とする平成30年度当初予算の事業を、事業仕分けの対象とした。その理由は、他の2つの基本目標にかかる事業は、市民の命に関わるような重要なものが多く、生徒が事業仕分けをする際、取捨選択しにくいのではないかと考えたためである。それに加え、「おどる」まち・とくしまには、生徒の生活に直接関わり深い事業が多く、自分自身のことと捉えながら積極的に考えて事業仕分けができることも理由の一つである。

基本目標「おどる」まち・とくしまを実現するために実施が予定されている事業の中から、本授業で行う「事業仕分け」の対象を選定し、整理したものが、以下の表1である。選定基準は、①生徒がその具体をイメージしやすい事業であること、②予算額の大きい事業から小さい事業まで偏りが無いことである。

授業者3名は、事業の内容を理解するにあたり、インターネットでは入手できなかった事業概要などの情報について、徳島市役所に問い合わせを行った。徳島市の担当者にアポイントを取り、担当者宛てにメールで質問事項を事前送付した。平成30年8月末、授業者3名で徳島市役所を訪問し、担当者と直接面会して回答を頂いた。

「陸上競技場改修事業」(教育委員会スポーツ振興課)、「中心商店街等活性化事業」(経済政策課)、「観光客誘致

*鳴門教育大学大学院 社会系コース

**鳴門教育大学大学院 言語・社会系教科実践高度化コース

表 1. 事業で取り上げる事業

市の基本目標	事業名称	事業要旨	当初予算額 (千円)
「おどる」まち・ とくしま	①インバウンド誘 客事業	徳島の魅力を知ってもらうため、情報発信力のある外国人旅行者を招聘し、外国人自らの体験に基づく徳島の魅力を SNS などを通じて情報発信してもらい、外国人旅行者の誘客につなげる。	6,180
	②観光客誘致対策 事業	徳島県東部地域における観光事業に特化した徳島東部地域 DMO [*] と連携し、戦略的な本市のプロモーション活動等を展開する。	5,880
	③阿波おどり等宿 泊対策事業	阿波おどり期間中等の宿泊施設の不足対策として、住宅宿泊事業法による民泊の推進を図るため、セミナーを開催する。	1,000
	④とくしま動物園 リニューアル事 業	平成 26 年度に策定した「とくしま動物園管理運営計画」に基づき、H30～H32 の 3 か年でサバンナエリアの改修工事等を行い、動物園の集客力及び魅力の向上を図る。	230,635
	⑤地産地消推進事 業	徳島東部定住自立圏域において地元産農林水産物の安全・安心な食材の良さや魅力を PR するとともに、地場産食材の利用拡大及び地産地消を推進する。	2,744
	⑥中心商店街等活 性化支援事業	中心商店街等の活性化を図るため、空き店舗の改装経費や個店の魅力アップを図るモデル的な取組に要する経費の一部を助成する。	4,200
	⑦ファミリー・サ ポート・セン ター事業	保育施設等への子どもの送迎や保護者の急用等の場合の一時預かりなど、地域における、育児の援助を受けたい人で行いたい人の相互援助により、仕事と子育ての両立を支援する。	20,700
	⑧陸上競技場改修 事業	陸上競技場の第 2 種公認の再認定を目指し、メインスタンド、フィールド・トラックの改修工事を実施する（平成 29 年度から平成 31 年度までの 3 か年）。	398,359

※ DMO : Destination Marketing/Management Organization

※徳島市平成 30 年度当初予算 https://www.city.tokushima.tokushima.jp/shisei/zaisei/yosan/yosan_jokyou/2020/gaiyou2.files/shisakugaiyou.pdf 2020 年 1 月 16 日確認 より抜粋、再整理したものである

対策事業] (観光課) の担当者に、それぞれの実施にあつての背景と目的、内容、過年度の実績または期待される効果について直接説明して頂いた。その際に受領した資料は、第 1 次及び第 2 次の授業で活用した。

11 月より模擬授業ができるよう、ワークシートや板書案の作成、授業構成の構想などを中心に進めた。授業構成を考えた際、第 2 次では生徒が活動する時間が多いため、時間配分を考慮して授業者と板書担当者を分け、院生 3 名のローテーションで授業を行うこととした。しかし、3 パターンの授業が展開されることになるため、それぞれに対応するのは困難であると判断した。最終的には、授業の前後半で授業者を分け、また板書担当者を設けて、それぞれの役割を固定する方法で授業を行うこととした。

第 2 次では、生徒の活動時間を十分確保できるよう、授業者がパワーポイントを活用して説明するようにした。これにより、事業仕分け活動の説明が短縮され、より分かりやすくなったことに加え、活動の内容と問いを常にパワーポイントで映し出しておくことで、生徒がいま何をすべき時間なのか認識しやすくなった。

生徒が様々な視点に立ってより深く考えながら事業仕分けができるよう配慮した。大きくは、2 回の事業仕分けの活動の間に、生徒と他のクラスメイトとの意見交換を行う学習を入れる構成とした。具体的には、まず、授

業者が徳島市の財源には限りがあることを説明し、生徒個人に 1 回目の事業仕分けとして判断させる。次に、生徒相互の意見交換を通して、各自の判断を共有させたのち、2 回目の事業仕分けをさせることとした。

第 2 次は、授業者自身が活動の順番やその説明、パワーポイントを提示するタイミングなど、授業を進めていくにあたって注意すべきポイントが多い。そのため、授業の流れを細かく示した細案を作成し、これを授業者 3 名で共有することで、緊密に連携し、授業を進められるようにした。

板書について、当初は生徒から出た意見を板書担当者が書き出すことを計画していた。しかし、生徒の意見や授業者のその場での意図・判断と板書担当者の意図・判断のズレが生じること、時間配分の点から、ホワイトボードに班ごとの意見をまとめ、それらを黒板に掲示する形式を採用した。ホワイトボードに生徒が多くの意見を書いてしまうと文字が小さくなり、生徒が見づらくなってしまうことが予想された。そこで、ホワイトボードに書き込む文字列の目安 (3 列程度) を、ホワイトボードの配布時及び机間指導の際、指導することとした。

対象とする第 3 学年 4 学級については、連続して授業を実践することとなるため、2 クラス目からの授業準備が取れないことが予想された。そのため、授業の導入で提示するめあては手書きではなく、事前に作成した印刷



写真1. 授業検討の様子

物を黒板に貼るよう工夫した。

事業仕分け活動の際、重視する視点である「4象限の軸」をしっかり踏まえて判断できるよう「まとめワークシート」については、必要・不要を判断した理由を書く前に再度考えさせるようにするなど、それぞれの項目の順序を考慮しながら作成した。

11月から7回ほど模擬授業を行った。模擬授業では、他の院生にも参観を依頼し、意見をもらいながら授業改善を行った。計画した授業がスムーズに実践できるよう、学習環境や授業計画の点での工夫点や注意点を明確としたことが、スムーズな実践へと結びついた要因の1つといえる。
(陶久 円花)

Ⅲ. 単元「徳島市の将来から市の事業を見つめ直してみよう！」の実際

1. 授業計画

○単元名

徳島市の将来から市の事業を見つめ直してみよう！

【指導計画】

時間	環境・資料	学習活動	指導上の留意点	評価
事前学習	調べ学習 WS (返却) 班活動 WS	○ 秋休み課題で行った調べ学習の内容を班(8班)で共有し、事業の概要をまとめる。	○ 本時の活動に先立ち、生徒に取り組ませた調べ学習の内容について、各班で共有させる。	
5分	活動説明 (パワーポイント)	1 事業仕分けの活動内容について説明を聞く。	○ 事業仕分けのルールについて説明する。	
15分	班活動 WS	2 班ごとに事業仕分けの活動を実践する。	○ 机間指導により活動が円滑に行われているか巡視・指導する。	○ 取り上げた事業についての有用性・効率性などを踏まえ、その要否や予算規模について判断し表現することができる。 【思考・判断・表現】 (机間指導)
30分	班活動 WS ふりかえり WS 班の割振り説明 (パワーポイント)	3 班ごとに事業仕分けの結果を発表する。また他の班の仕分け結果に対する賛否と理由をまとめる(2班分)。	○ 「徳島市の将来を考える上で重視する視点」を板書し、各班が担当する事業の位置付けを全体に示す。 ○ 各班の仕分け結果に対する賛否とその理由をふりかえり WS に記入させる。	

○時期

平成30年12月12・13日(水・木)

平成30年12月14日(金)

○対象

鳴門教育大学附属中学校第3学年

○単元の概要

本単元は、徳島市の政策についての調べ学習を事前に行い、調べたことをもとにした授業として構成している。本実践では、秋休み課題が本単元を構成する調べ学習に位置づく。

まず、第1次では、各自で調べ学習してきた内容の共有及び班ごとで徳島市の事業の事業仕分けを行う。

第2次では、各事業の予算の使い方や財政が果たす役割に着目し、事業の要否を考える際には長期的な視野も必要であるということを理解した上で、8つの事業を個人で事業仕分けする。事業仕分けは、個人で考えて行う1回目、ペアでの意見交換などをもとに再度個人で考えて行う2回目の計2回を行う。

徳島市が行う事業の有用性や効率性に着目し、それらの要否や予算規模について思考・判断・表現する活動(事業仕分け)を行い、徳島市が行う事業が果たす役割と財政の仕組み、財政と生徒自身の生活との関わりについて考えることができることを目指す。(門出 有芳葉)

○第1次

【目標】

徳島市が行う事業の概要を踏まえ、それらの事業の有用性・効率性などの観点から、事業の要否や予算規模について、自分なりの判断を表現することができる。

○第2次

【目標】

徳島市が行う各事業の特質と財政の仕組みの理解を踏まえ、財政と自分の生活との関わりについて自分なりの考えを表現することができる。

【指導計画】

時間	環境・資料	学習活動	指導上の留意点	評価
2分	ふりかえり WS (返却)	1 前時の振り返りをする。めあてを確認する。	○ 授業者が前時の活動の振り返りを行う。	
18分	まとめ WS ホワイトボード 以下パワーポイント ・前時の班活動で確認した各事業が重視する視点 ・各事業の当初予算 ・事業の代表的写真 (2枚) ・とくしま動物園リニューアル事業の発問など	2 財政の役割を考えるためには、予算の使い方について長期的な視点も必要だということを確認する。 とくしま動物園リニューアル事業に、民間企業ではなく徳島市が予算を拠出している理由を考える。	○ 各事業がもたらす財政的効果について、建物重視と制度重視各々の事業への予算の使い方に着目させ、長期的視点も踏まえる必要があることを理解させる。 ○ 中央政府だけではなく徳島市も財政が果たす役割を踏まえた活動を行っているということを理解させる。	
27分	まとめ WS 模造紙 (4象限の軸) ネームプレート 以下パワーポイント ・当初予算のグラフ ・意見発表の説明 ・徳島市の将来像	3 徳島市の平成30年度当初予算の歳入の内訳を見て、多くを依存財源に頼っている現状を確認する。 前時で扱った事業について、各事業の実施が決まる前の段階での要否を判断する。その際、「徳島市の将来を考える上で重視する視点」を使ってその理由を考える。 ペアで意見を交換し合い、生徒個人が模造紙にネームプレートを貼る。 個人の事業仕分けの結果とその理由を発表する。 その後、最終判断を行う。	○ 国の支援や借金に依存している現状から、実施する事業には優先順位をつけることが大切であることに気付かせる。	○ 重視する視点を考え、その要否を判断し、仕分け結果とその理由について、考えをまとめ、表現することができる。 【思考・判断・表現】 (発言・WS)
3分		4 徳島市の目指すまちの将来像を確認する。 自分の生活と財政との関わりを見つめ直すことなど、学習のまとめを聞く。		

(1) 事業を捉える枠組み

「事業を捉える枠組み」は生徒が事業の要否について検討する際の指標である。縦軸には「県外者向けの事業」、「市民向けの事業」、横軸には「建物重視の事業」、「制度重視の事業」を設定し、2つの軸から導かれる4つの象限が示されている。授業における判断は、この「事業を捉える枠組み」に位置づけることによって共有することになる。

(2) パワーポイント

(1)や事業内容の理解を助けるために、パワーポイントのアニメーション機能を活用した。学習活動の順序を簡潔に示すことで、学習の進行状況を生徒が常に確認することが期待できるからである。

パワーポイントのスライドでは、まず、8つの事業について代表例の写真を示した。これにより、自身の班が

2. 視聴覚教材の内容

本授業では視聴覚教材を活用している。中心となるのが、「事業を捉える枠組み」である。これを模造紙やパワーポイントを用いて、常に生徒の見える位置に提示した。ここでは、各事業の財政上の特徴などをより深く理解させ、意見を位置づけながら、他者の意見、自身の意見の違いを把握するためのツールとして活用することを想定している。

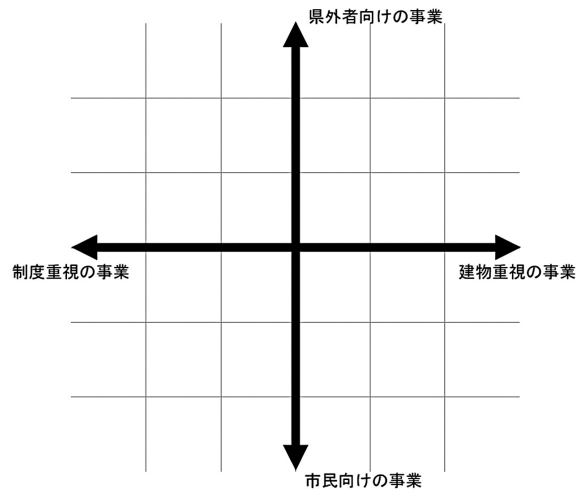


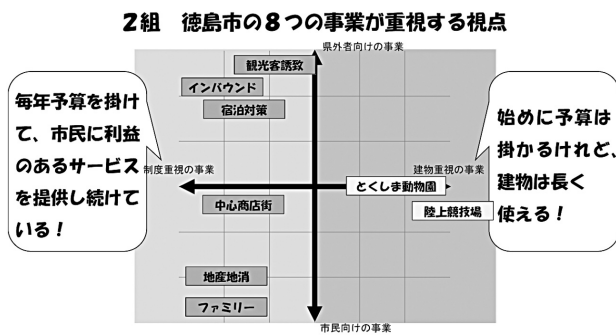
図1. 事業を捉える枠組み

担当しなかった事業であっても生徒全員がその具体を共

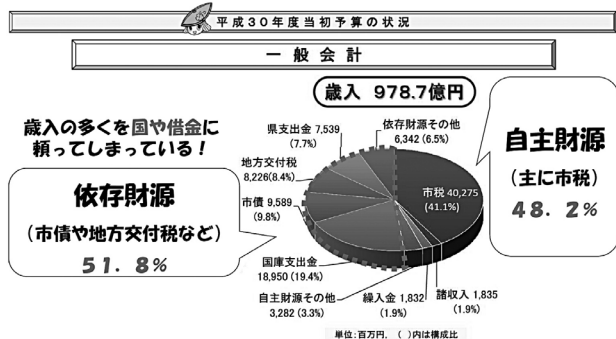
有することが期待されるからである。

次に、徳島市の平成30年度の当初予算の歳入の内訳を示した。これにより、歳入の半分以上を依存財源に頼っている現状を知ること、限られた予算でどんな事業を行うべきか吟味していく必要性に気づくことが期待できるからである。

最後に、徳島市が目指すまちの将来像を示した。徳島市のマスコットである「トクシー」を入れるなどすることで、身近さを引き出すと共に、「自分にとって住みやすいまちとはどんなまちか」、「自分の住む市町村をどんなまちにしたいか」など自分の生活と財政との関わりを見つめ直すことができるようにした。



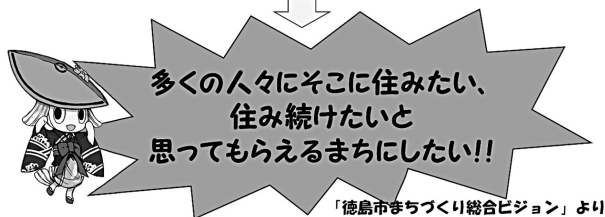
スライド1. 「事業を捉える枠組み」の説明資料



スライド2. 徳島市平成30年度当初予算の説明資料

徳島市の目指すまちの将来像

現状 少子高齢化の進行
大都市への人口流出



スライド3. 「徳島市の目指すまちの将来像」の説明資料 (門出 有芳葉)

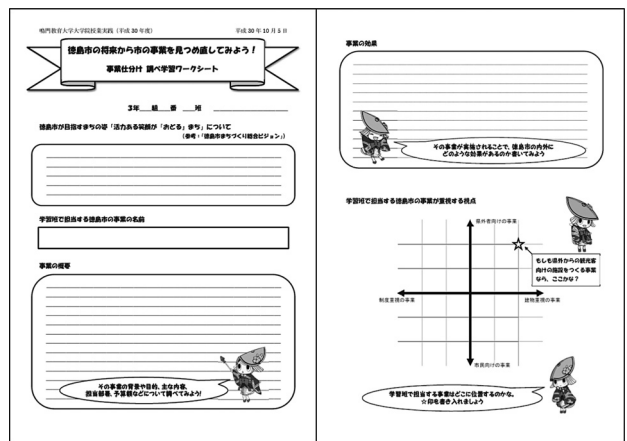
IV. 授業の実際

事前学習及び第1次については、こちらで計画したものを連携校の高崎先生にご実施いただいた。

(1) 第0次

事前の調べ学習を9月の秋休みの宿題として設定した。以下は、生徒に配布した調べ学習の形式を示したワークシートである。

本番の授業で取り上げる8つの事業について、グループごとに分担を決め、調べるように指示した²⁾。参考として、徳島市の予算についてのホームページのURLを示し、事業についての最低限の情報は保障できるような構成とした³⁾。



ワークシート①：調べ学習の形式

(2) 第1次

1. 授業の流れ

まず、本時の学習課題と活動内容の流れを確認した。その後、生徒が各自で行った調べ学習の内容について、班で共有し合いまとめるといった情報共有の活動を行った。その際、いくつかの資料を追加し(徳島市の観光ガイドブック等)、それらも適宜参照するよう指示した。

この活動では、各自で「調べ学習ワークシート」にまとめた内容をもとに、班で担当する徳島市の事業の目的、内容、効果について、「班活動ワークシート」(以下、「ワークシート②」)を用いて整理するよう、指示した。

情報の共有と共に、「事業を捉える枠組み」に、調べた事業を位置づけるよう指示した。「事業を捉える枠組み」では、「県内/市民向けの事業」、「制度/建物重視の事業」の2つの観点から、事業の特徴を4つの象限で位置づけることで捉えさせることを意図したものである。

次に、展開部では、各班が担当する事業について仕分け活動を行った。この活動では、事業仕分け(選択肢として、強化/維持/縮減/廃止の4つを提示)とその理

ワークシート②：班活動ワークシート

由、その事業に充てる予算額について、班で意見をまとめ、ワークシートへと書き込むよう指示した。

最終部では、各班が事業仕分けの結果を発表した。発表を通して、各班の判断を共有するとともに、生徒個人も判断するよう、「ふりかえりワークシート」(以下、ワークシート③)を配布した。

ワークシート③：振り返りワークシート（記述例）

生徒には、発表される事業について、「事業を捉える枠組み」に基づき、個人の考えとして位置づけるよう指示した。すべての班の発表の後、本時を踏まえた第2次の授業を鳴門教育大学の院生が行う旨を伝え、授業を終えた。

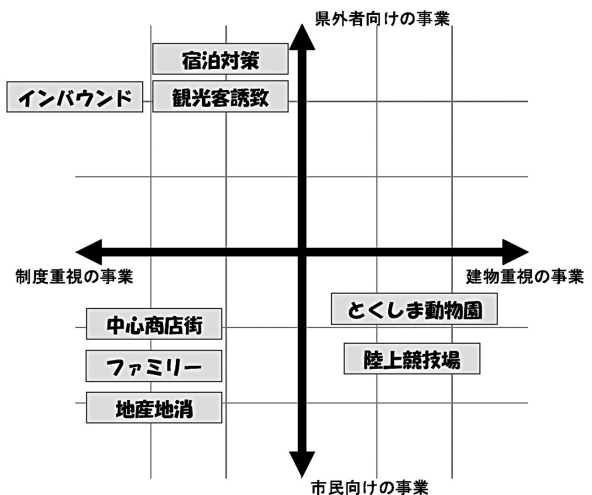
2. 事業仕分けの結果の概要

第1次では、授業の概要を理解し、簡単な仕分け作業

をするとともに、それぞれの事業の特徴を「事業を捉える枠組み」に位置づけさせた。以下は、発表を通して出てきた、各事業の特徴を位置づけたものである。

それぞれの実践では概ね共通して、「④ とくしま動物園リニューアル事業」と「⑧ 陸上競技場改修事業」を「建物重視の事業」かつ「市民向けの事業」と位置付けていた。また「① インバウンド誘客事業」と「② 観光客誘致対策事業」を「制度重視の事業」かつ「県外者向けの事業」として、「⑦ ファミリー・サポート・センター事業」を「制度重視の事業」かつ「市民向けの事業」と判断していた。

これに対し、残り3事業については判断が異なる学級もあった。例えば、「③ 阿波おどり等宿泊対策事業」は、「制度重視の事業」である点で各学級の担当班ともに共通したが、「市民向けの事業」であると判断した学級もあった。また「⑤ 中心商店街等活性化支援事業」は、「市民向けの事業」である点で概ね共通したが「建物重視の事業」であると判断した学級もあった。



スライド4. 事業を捉える枠組み（第1次の結果）

3. 授業の流れ

第2次の導入部では、まず、前時で使用した「ふりかえりワークシート」を参照しながら、活動を振り返り、学習課題「地方財政と私たちの生活との関わりについて考えてみよう」を確認した。次に、各班が担当する事業について、「事業を捉える枠組み」に位置づけたものを確認した。次に、「8つの事業のなかで予算がかかっているのはどれだと思えるか」と生徒に予想させた。そして、8つの事業ごとの当初予算額を生徒に提示し、予算額の多寡、特に2つの「建物重視の事業」（「④ とくしま動物園リニューアル事業」と「⑧ 陸上競技場改修事業」）の予算額が、他の事業よりも多いことに注目させた。

その上で、「建物重視の事業」として「⑧ 陸上競技場改修事業」を、「制度重視の事業」として「③ 阿波おど

り等宿泊対策事業」を代表例として取り上げ、事業の性質や予算の使い方には違いがあることを考えさせた。この活動では、「陸上競技場改修事業は、これからも毎年多くの予算がかかるものなのだろうか」、「阿波おどり等宿泊対策事業は、陸上競技場改修事業と同じように今年度だけ予算がかかるものなのだろうか」と授業者が問いかけた。前者の問いに対して生徒は、「維持費は毎年かかるものだが、今年度の改修事業ほど多くの予算はかからない」、後者には「毎年少しずつ予算がかかる」等と答えた。

これらを踏まえ授業者は、「建物重視の事業」は「始めに予算はかかるが、建物は長く使える」こと、他方で「制度重視の事業」は「毎年予算をかけて、市民に利益のあるサービスを提供し続けている」ことを提示した。この活動で生徒は、「財政の役割を踏まえると、長期的な視点を踏まえた予算の使い方もある必要である」ことを確認した。

展開部は、大きく2つの活動を授業者2名がそれぞれ担当した。前半は、授業者が提示した「とくしま動物園リニューアル事業に、民間企業ではなく、徳島市がお金を出すのはなぜだろう」という問いについて、まずは生徒自身、そして班で考えた。そのうえで、各班で意見を整理し、ホワイトボードに書き込むという活動を行った。活動にあたり、後半担当の授業者と板書担当者が、本時で生徒個人が使用する「まとめワークシート」を配布した。授業者は、この問いについて自分自身で考えワークシートに記入するよう指示した。

続いて、生徒の活動状況を見つつ、机を班の隊形に移動させ、班活動に移らせた。班での議論は、代表者に渡したホワイトボードに整理するよう指示し、まとめ次第黒板に掲示するよう指示した。

班活動の結果、概ね、徳島市や徳島市民の立場から「とくしま動物園は徳島市が経営している施設（市営）だから」、「観光客の増加など、徳島市（徳島市民）にとって利益のある事業だから」とする意見や、民間企業の立場から「事業に必要なお金が民間企業には不足しているから」、「民間企業には儲けが少ない事業だから」とする意見等が見られた。

授業者は、各班が提示した意見を集約し、地方公共団体が公共財を提供するのは、「民間企業は、事業に必要なお金を十分に集められないし、儲け（利潤）を優先するため、儲からない事業は行わない。それに対して地方公共団体である徳島市は、事業に対して儲けではなく、市民に利益となる事業にお金をかけようと考えているから」と解説し、なぜ、徳島市が「とくしま動物園リニューアル事業」に予算を拠出しているのか、その目的を生徒に提示した。

徳島教育大学大学院授業実践（平成30年度） 平成30年12月14日

徳島市の将来から市の事業を見つめ直してみよう！ まとめワークシート

3年 組 番 班

【めあて】 地方財政と私たちの生活との関わりについて考えてみよう
とくしま動物園リニューアル事業に、民間企業ではなく、徳島市がお金を出すのはなぜだろう？

8つの事業の実施が決まる前の段階で、以下の事業が必要かどうか判断してみよう！

1回目は、自分で考えてみます。各組で話し合い2回目以降最終判断をします。それぞれの考えを記入しましょう！！

事業名	平成30年度当初予算額	1回目	2回目
① インバウンド観光事業	618万 円		
② 観光客誘致対策事業	588万 円		
③ 阿波おどり等宿泊対策事業	100万 円		
④ とくしま動物園リニューアル事業	2億3,063万5千円		
⑤ 地産地消推進事業	274万4千円		
⑥ 中心商店街等活性化支援事業	420万 円		
⑦ ファミリーサポートセンター事業	2,070万 円		
⑧ 陸上競技場改修事業	3億9,835万9千円		

徳島市をより良くするために、あなたが重視する視点を考えて、必要/不要を判断した理由を書き込みましょう。

海外向けの事業
民間重視の事業
民間向けの事業
市民重視の事業

☆印を書き込みましょう！！

必要/不要を判断した理由

1回目	2回目

ワークシート④：まとめワークシート

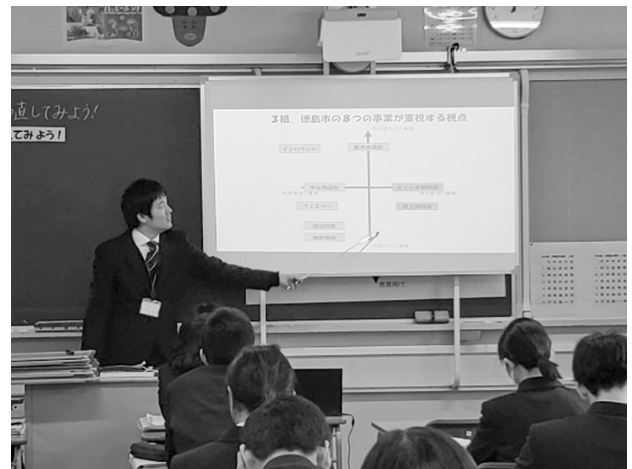


写真2. 第2次の様子（授業前半）



写真3. 第2次の様子（机間指導）

次に、展開部の後半では、事業の実施が決まる前段階であるという設定を確認したうえで、8つの事業の要否を生徒個人で判断するという活動を行った。活動にあ

り授業者は、まず、徳島市の歳入の内訳を示す円グラフをパワーポイントで提示した。生徒は提示資料を参照しつつ、地方財政がその多くを依存財源に頼っている現状を確認した。その際、公的分野における既習事項の復習も行った。次の活動として、「① 8つの事業の全てについて事業仕分けを行うこと」、「② 事業仕分けの1回目として、まずは個人で考えること」、「③ 座席の隣同士（ペア）で事業仕分けの結果について話し合うこと」、「④ 2回目として、個人で最終判断を行うこと」を生徒に説明した。

生徒が「③座席の隣同士（ペア）で事業仕分けの結果について話し合うこと」を終えたことを確認し、「④ 2回目として、個人で最終判断を行うこと」に移った。最終判断は、自身が重視する点を「事業を捉える枠組み」に位置づけるよう、指示した。

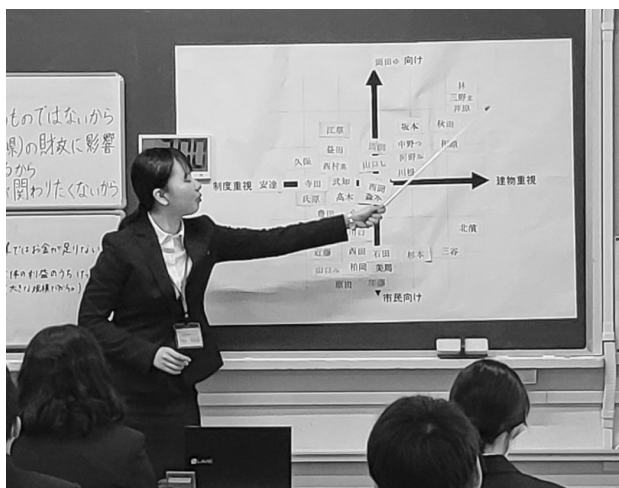


写真4. 第2次の様子（生徒の判断）

生徒が円滑に教室を移動できるよう適宜誘導した。授業者は生徒が重視する視点の分布や傾向をもとに、生徒1～2名を指名し、「①重視する視点をその箇所に置いた理由」、「② 事業仕分けの結果」、「③ 必要か不要かを判断した理由」について生徒に発表させた。なお、当初予定していた2回目の事業仕分け活動については、授業時間の制約から、授業者の判断により、各学級とも宿題として生徒に課すように変更して対応した。

終結部では、パワーポイントを用いて、徳島市の目指すまちの将来像を確認し、生徒自身の生活と自分が暮らす市町村の財政との関わりを見つめ直すことの大切さなど学習を総括して授業を終えた。（山根 拓）

V. 子どもの到達度の分析と実践の振り返り

(1) 到達度の分析

授業を受けた子ども159人は、どれくらいねらいに到達しただろうか。第2次の終結部では、「8つの事業の実

施が決まる前の段階で、事業が必要かどうか判断してみよう。徳島市をより良いまちにするために、あなたが重視する視点を考えて、必要／不要を判断した理由を書き込みましょう」と指示し、ワークシートに記入させた。この問いに対する記述について、4つの評価規準から5段階に分類し、評価した。以下、評価規準とその段階及び生徒の学習の到達度を整理したものである。

表2. 評価規準と段階の関連

段階	① 学習内容を踏まえている（4象限の軸や事業の名称を使っている）	② 具体性がある	③ 徳島市に関する課題意識が読み取れる	④ 自分の意見を述べている	基準
5	○	○	③と④を関連付けている		①～④がすべて述べられており、かつ③と④の関連付けができています
4	○	○	○	○	①～④がすべて述べられている
3	○	○	③または④が述べられている		①と②に加えて、③または④が述べられている
2	文脈を踏まえていない	×	×	主観的に述べている	①は述べられているが、文脈が踏まえられておらず、④は主観的な記述に留まっている。また、②と③が述べられていない
1	課題に答えていない				課題に答えていない

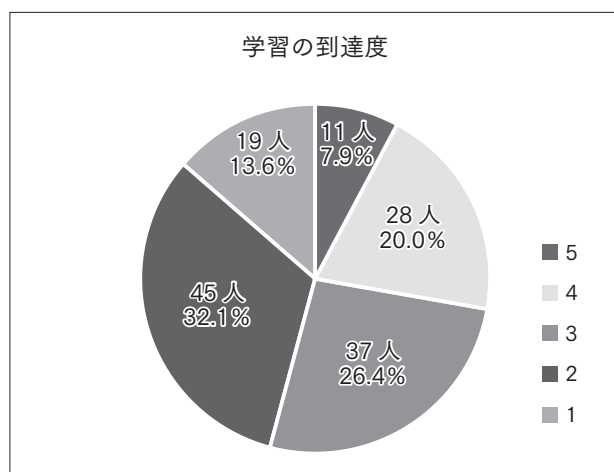


図2. 子どもの学習の到達度（山根作成）

図2は授業を受けた生徒159人の学習の到達度を整理したものである。まず、評価5（7.9%）に位置づく生徒は、「事業を捉える枠組み」や事業の名称など学習した内容を踏まえ、徳島市に関する課題意識と自分の意見を関連付け、具体性をもって記述している。

評価4（20.0%）に位置づく生徒は、「建物重視の事業を先に行うことで、依存財源を少しずつ解消できると思

うから]、「観光客を呼び込まないと経済が潤わない。動物園をリニューアルしてもそこまで効果がないと考え、リニューアル事業を廃止し、他の事業に予算を回す方がいいと考えたから」というように、学習内容を踏まえ、具体性をもって、徳島市に関する課題意識に加え、自分の意見を記述している。

評価3(26.4%)に位置づく生徒は、「住み続けたいというのを望むのなら、市民重視だと思う。市民は、今あるもののリニューアルなどよりも新しいものの方が好むと思ったから」というように、学習内容を踏まえ、具体性をもって記述している。しかし、評価4に至らないのは、徳島市に関する課題意識もしくは、または自分の意見のどちらかの記述にとどまっているからである。

評価2(32.1%)に位置づく生徒は、「県外者のことも考えた方がいいと思ったから」、「建物をつくっても人が来ないから意味がない」というように、学習内容を踏まえて記述されているが、具体性や徳島市に関する課題意識がなく、自分の意見について主観的な記述に留まっているものである。また、評価1は「課題に答えていない」記述である。今回は該当するものはなかった。

(門出 有芳葉)

(2) 本授業の振り返り

前述した(1)より、本授業における生徒の学習の到達度は、評価2の生徒の割合が最も高く、次いで評価3が高くなっている。評価2の生徒の記述が主観的なものに留まっていた一因としては、生徒個人が行う事業仕分けの活動の際に、根拠を示して理由を記述するよう、授業者が具体的に指示していなかったことが挙げられる。

評価3の生徒の記述のうち、「徳島市に関する課題意識」が読み取れなかったものが散見された。このような記述が出てきた要因として、2つ挙げられる。1つは、「徳島市の平成30年度当初予算の説明資料」や「徳島市の目指すまちの将来像」の説明資料」の提示の際、自分自身の問題として考えるとといった主体的な課題解決の姿勢を促す声掛けが不十分であった点である。2つ目は、第2次の終結部において、自分の住んでいる市や町の財政と、自分の生活とのかかわりを見つめ直す契機とするよう教示したものの、生徒が普段生活している地方公共団体の財政と、自分の生活との関わりについて、十分に扱わなかった点である。資料の配布にとどまらず、声掛けや意識付けなどを授業構成の中にもっと取り込む必要があったといえよう。

また、授業実践上の課題としては、時間不足のため、生徒個人が2回目の事業仕分けを実施したり意見を交換したりする機会が確保できなかったことが挙げられる。今回は、附属中学校の高崎先生のご協力により、実践後の課題とすることができた。今後は時間配分への配慮も

忘れないようにしたい。

これらの問題の改善を今後の課題としたい。

(陶久 円花)

VI. おわりに

本研究においては、これまでに行われている地方自治や地方財政に関する学習が、単に政治や財政の仕組みについて必要な知識を習得させるに留まり、具体的に地方公共団体の財政が市民の生活とどのように関わるのか、という実感がもてるものになっていないという問題意識のもと、授業開発・実践を行ってきた。本研究の成果は以下の2点であると考えられる。

まず1点目は、地方財政が自分たちの生活と関わっているという実感を持たせるため、具体的な事例として徳島市の8つの事業を取り上げた点である。実際に行われている地方公共団体の事業を取り扱うことで、身近な生活と密接に関わるという実感を持たせることを可能にした。

次に2点目は、生徒が事業の要否について検討する際の指標として「事業を捉える枠組み」を用い、各事業の特徴を具現化し、比較可能にした点である。「事業を捉える枠組み」は、生徒が事業仕分けをする際の判断材料として有効に機能していたといえる。

一方、本研究の課題としては、生徒の最終的な成果物から授業内容を十分に踏まえず、主観的な判断理由に留まっている記述が見られた点が挙げられる。地方財政の問題点と地方公共団体が将来目指すべき姿について学んだ後、その内容を生徒個人の活動に還元させる工夫をしていくことが今後求められるだろう。

以上の成果、課題を踏まえ、今後も中学校社会科で行う概念学習の授業開発・実践を行っていきたい。

(山根 拓)

◎謝辞

鳴門教育大学附属中学校校長大泉計先生には実践・報告書の作成に当たりいろいろとご配慮いただきました。また、本実践に当たってのアドバイスを同じく鳴門教育大学附属中学校の高崎英和先生にいただきました。教材研究に当たり、徳島市役所の山下裕太さん(教育委員会スポーツ振興課)、一宮郁子さん(経済部経済政策課)、近藤和哉さん(経済部観光課)には、事業概要の説明及び資料提供などさまざまな面でご協力いただきました。ありがとうございました。

◎追記

本稿の内容は筆者一同の共同作業の成果であるが、本稿に記した報告の最終的な文責は井上にある。

(井上 奈穂)

脚 注

- 1) これまでに井上らは小学校・中学校における概念の習得・活用を行う授業の開発を行ってきた。
- 2) 担当の事業以外についても調べることができるよう、予備のワークシートも用意した。
- 3) 「調べ学習」の資料に提示した徳島市役所のホームページ（以下、2020年1月24日確認）
○徳島市まちづくり総合ビジョン
(https://www.city.tokushima.tokushima.jp/shisei/machi_keikaku/sougovision/index.html)
○徳島市まち・ひと・しごと創生総合戦略（徳島市未来チャレンジ総合戦略）
(https://www.city.tokushima.tokushima.jp/shisei/machi_keikaku/mirai_senryaku/senryaku_about.html)
○平成30年度当初予算の主要施策の概要
(https://www.city.tokushima.tokushima.jp/shisei/zaisei/yosan/yosan_jokyou/2020/gaiyou2.files/shisakugaiyou.pdf)

引用・参考文献

- 井上奈穂ほか「小学校社会科における習得・活用型授業の構想と展開—単元『住民の政治参加』の場合—」鳴門教育大学授業実践研究, 第11号, pp.59-65, 2012. 3.
- 井上奈穂ほか「『情報化した社会』に関する概念の習得・活用を目指す授業の構想と開発—小学校5学年『くらしを支える情報』の実践—」鳴門教育大学授業実践研究, 第12号, pp.75-84, 2013. 3.
- 井上奈穂ほか「小学校社会科における体験型授業の構想と展開—小学校5学年『自動車産業について考えよう』の場合—」鳴門教育大学授業実践研究, 第13号, pp.81-90, 2014. 3.
- 井上奈穂ほか「小学校社会科における概念探究型授業の構想と展開—単元『これからの食料生産—どうする!? 回転ずし—』の場合—」鳴門教育大学授業実践研究, 第14号, pp.79-86, 2015. 3.
- 益井翔平ほか「概念の習得・活用を目指す小学校社会科授業—小学校第6学年『憲法とわたしたちの暮らし』の場合—」鳴門教育大学授業実践研究, 第15号, pp.65-73, 2016. 3.
- 小川雄大ほか「小学校社会科における視聴覚教材を活用

した授業の構想と展開—小学校第6学年『平和で豊かな暮らしを目指して』の場合—」鳴門教育大学授業実践研究, 第16号, pp.57-64, 2017. 3.

長尾亮太ほか「中学校社会科における体験的な活動を通じた授業の構想と展開—中学校第3学年『憲法草案の選択と国の成立』の場合—」鳴門教育大学授業実践研究, 第18号, pp.57-66, 2019. 3.

中央教育審議会「『主権者教育の推進に関する検討チーム』最終まとめ～主権者として求められる力を育むために～」, 2016.

(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/1372381.htm) (2019年1月29日確認).

文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版社, 2008.